



2025年度 入職式

とも通信

社会福祉法人
パーソナル・アシスタンス とも
〒2790022 千葉県浦安市今川1-14-52
TEL:047-304-8808
FAX:047-304-8821

「分離はやっぱり差別だよ～人権としてのインクルーシブ教育～」

上記は昨年10月にご逝去された、O弁護士のご著書のタイトルです。私たちの法人「パーソナル・アシスタンス とも」の始まりも、このタイトルと同じ想いから出発しています。

遡ること30年以上前、障がいを持つ子を授かった私は「障がいがあっても子どもたちの育ち合いの中から分離しないでほしい」、「障がいを持たない子どもたちと同じように、選べる人生を歩ませたい、それが権利なのではないか？」という想いで、仲間達と市民活動を行っていました。

その頃に発足した私たち法人の原点「浦安ともに歩む会」は、大阪大東市でノーマライゼーションの街づくりに尽力していたY先生とのお縁をいただいたこともあり、障がいがある子どもとその保護者に、自分の通う学校の選択の自由と学ぶための支援の保証を条例として浦安市が作成するところにたどり着く事が出来ました。共に学ぶことを選んだ親子は、障がいがある子どもとその保護者としても、同じ学区の子どもたちと義務教育の間は通常学級で、ともに学べるようになったのです。その浦安ともに歩む会が毎年催していた講演会のタイトルはいつも同じで「考えよう、みんなとともに生きること」。講師としてお招きしたO弁護士が、熱く法律の必要性と人権について語ってくださっていた姿は、「法律は人の意識の底支えをする。だから法律にしなきゃダメなんだ」という（ご主旨）の言葉とともに記憶に鮮明に残り、今でも私たちを勇気づけてくれます。

やがて「浦安ともに歩む会」の子どもたちは学齢期を終え、親である私たちは、引き続き彼らが地域社会の中で分離されずに生きていくために、福祉事業を行う法人設立へと足を進めました。

何のために事業があるのか？なんのためにサービスを提供することに決めたのか？と言えば、誰もがともに生きられる社会になるための手段が必要だからです。O弁護士の言うとおり、分離はやっぱり差別なのです。

Oさんがご逝去されたことは寂しくて仕方ありませんが、「分離は差別だよ」と感じている私たち一人一人が、しっかりとその意思を繋げていきたいと強く考えています。

福祉事業も多くなり、社会資源も選べるようになりました。だからこそ、ともに生きるための福祉サービスを提供できる法人でありたい、と改めて新年度のスタートにあたり考えています。

皆さんもぜひ一緒に考え、共に歩んでいただければ幸いです。

理事長 西田良枝

2025

74

とも通信

ともの事業所紹介、そこで働く人たち

パーソナルケアセンター



パーソナルケアセンターで働いて5年目になります。私の一日のはじまりは、日々違う支援の内容を考え、「今日はどうしようか」考えながら出勤します。入職してから今までも変わらず、利用者さんの生活を支えるという責任に様々な困難や悩みは続いています。ですが、その悩みもパーソナルケアセンターで働いていくうえでは大事なものと先輩から教わり、今ではそのことを後輩に教えるようになりました。まだまだ悩むことはたくさんありますが、利用者さんの生活を少しでも豊かにできるようにチーム全体で支援に取り組んでいきたいと思っています。

パーソナルケアセンターは、支援が必要な方へ、24時間365日、住み慣れた地域で自分らしく暮らせるように、一人ひとりに合わせたオーダーメイドの支援を提供しています。登録特定行為事業者（喀痰吸引等業務）として医療的なケアも行います。主に障害福祉サービスである居宅介護、重度訪問介護、行動援護、地域生活支援事業である移動支援の4つのサービスを提供しています。そのためパーソナルケアセンターの職員は、外出支援や1人暮らしの支援、宿泊を伴う旅行の支援やご自宅での家事支援など、多様な個性や希望を持つ利用者さんの様々な生活場面での支援に従事し、地域生活と自己実現を支えることが出来るよう、日夜その専門性を上げる努力を続けています。

障害児通所支援事業所マリーナ

マリーナでは、子どもたちがさまざまな体験を通し、社会性を身につけ、大人になっても地域で自分らしく暮らしていくためのサポートをします。夕食会やおやつ作り、工作やレクリエーション等さまざまなプログラムを通し、楽しく活動する中で、聞く力、伝える力、ルールの理解、人との関わり、コミュニケーション等、生きていく上で必要なスキルを身につけられるよう支援します。また、地域での活動も取り入れ、さまざまな経験を積み重ね、自信につなげていきます。子どもたちの「楽しい!」と思える気持ちから「やってみよう!!」「できた!」「失敗しちゃったけど、次がんばろう!」など未来に繋がる経験を積める場所にしていけたらと思います。保護者や関係機関と連携しながら、子どもたちの強みを伸ばせる支援をめざし、職員一同チームワークで取り組みます。



利用者さんがなんとなく元気がない日もあります。そんな時は話を聴きながら気持ちに寄り添い、帰るときには笑顔で帰っていただけるように努めています。笑顔で帰る姿を見られた時、私も自然と笑顔になります。

相談支援事業所ふあり

2025年度、相談ふありが計画作成に必要なアセスメント（情報収集・分析）をする中で、特に大切にしたいのは「利用者さんが希望する生活をより具体的にイメージできるように、利用者さんの話をとことん聴き、整理して共有すること」です。まず、利用者さんは何が好きで、どんな時が楽しいのか、何が苦手かなどの情報をたくさん集めます。そこから、その人らしさや強みを相談員が理解し、真に望む生活と目指す姿の具体的なイメージを利用者さんと共有します。そして、希望する生活の実現に向けてどんな課題があり、どんな支援が必要なのかを、本人、家族や支援者の人たちと一緒に話し合いながら、具体的な目標や支援内容（サービス）を決めることによって、利用者さんが納得できる計画を作成することができるとしています。その計画を基にして、試行錯誤を重ねながら希望に近づいていけるよう支援していきます。



相談ふありでは、毎週1回皆でちょこっと集まる時間を「花丸ミーティング」と名付け、利用者さんにとっても私たちにとっても、少しでも花丸なことが増えるように、日々の支援や業務の中で皆と共有したいこと・改善したいことについて、話し合っています。

相談支援事業所きかん

基幹相談支援センターが委託事業と一体的に行っていた計画相談支援の自主事業化に伴い、昨年9月1日より、相談支援事業所きかんを開設しました。2025年度の事業方針は、「利用者さんが望む生活を実現するために、多職種連携で支援する」です。利用者さんが望む生活は一人ひとり違い多様です。そのため、専門性が違う職種の方や関係者の方との連携が支援のポイントとなることがあります。利用者さんが最善のケアを受け、希望する生活を地域でおくることが出来るよう、わかりやすい情報提供を行うとともに、ご本人が尊厳ある生き方を実現できるよう、相談員自身のケアマネジメント力向上も目指していきたいと思っています。



まちづくり活動プラザは、毎朝、地域住民の皆様がラジオ体操にきています。私の出勤時間と重なることもあり、朝の挨拶を心がけています。

利用者さんが新しいことに挑戦したり、活動エリアを広げ、さまざまな人と交流し、利用者さんたちの興味関心を広げ、充実した余暇を過ごしてほしいという思いから、利用者さんと一緒に楽しい企画を日々考えています。



日中一時支援事業所マリーナテラス

マリーナテラスでは、利用者さんが余暇活動や他者との関わりを通して、安心感や自己肯定感を得て、主体的に、自分らしく成長できる場所となるように支援しています。例えば、調理プログラムでは、利用者さんの希望をメニューに取り入れ、仲間と一緒に、役割分担をして調理を行い、和気あいあいとテーブルを囲んで食事を楽しみます。また、探検部やバス旅行などの外出プログラムでの共通体験で仲間意識を高めたり、社会のなかで感じるコミュニケーションの不安をSST（社会生活技能訓練）で学んで解消するなど、それぞれの安心感と成長を後押しする多彩なプログラムを実施しています。また、子どもから大人まで年齢を問わずに利用できるため、カードゲームやボール遊びをする異年齢のほほえましい交流も多く見られます。それらの活動や交流を通して利用者さんが成長し、人生が豊かなものになるよう、職員一同、利用者さんの声に耳を傾けながら支援します。

共同生活援助ハレレア

ハレレアは、社会福祉法人パーソナル・アシスタンスともが所有する集合住宅で、単身者向けワンルームが鍵付き完全独立型の共同生活援助の居室として提供されています。外廊下でつながった住居には交流可能な共同スペースも備わり、独立した生活を送りながら地域とのつながりも保てる環境が整っています。他の福祉サービスを組み合わせることで、日中活動の場の確保を行い、健康管理や外出のサポートを受けながら自立へ向けた練習を行うことが出来るのです。周辺には公共施設や買い物スポットが充実しており、知的好奇心を満たしながら便利な生活が送れる好立地。ともが支援するのはひとり暮らしの自由だけでなく、社会とのつながりも保ちながら「安心安全な、その人らしい暮らし」を叶えることです。地域の利便性が高く、住み慣れた環境で「望む暮らし」の実現をめざし支援をしています。



就労継続支援B型事業所とも

2025年度の事業方針は「ひとりひとりの地域生活を支える就労支援」就Bともでは、キッチンカフェほっぶとカフェテラスゆうの二つのお店を運営し、接客や弁当販売、内職や清掃、手作り品の製作・販売など、障がいのある方の地域の中での様々な活躍の場と機会を提供しており、その中で、ひとりひとりの利用者さんが、社会人としての目標を達成できるように、特性や希望、課題に合わせて支援しています。目標は多岐にわたります。一般就労や、次のステップに向けて、働くためのマナーやルールを守るようになること、一緒に働く人と上手にコミュニケーションを取れるようになること、作業に集中すること、できる作業を増やすこと、毎日就労できるようになることなど様々です。それぞれが得意なことを伸ばし、苦手なことも少しずつ克服していくことによって、利用者さんが、自信と社会人としての自覚を持って、地域社会でよりよい生活ができるよう、関係機関とも協力しながら、支援してまいります。



美味しいご飯を食べている時の顔は幸せが溢れています！
しあわせな笑顔を見て、こちらも幸せをお裾分けして
もらっている気分になります。

訪問看護ステーションとも

訪問看護ステーションともは、2018年9月に江戸川区で本格稼働し、2023年5月に浦安に移転してから今年度で7年目となります。私たちが訪問時に心がけていることは、特別なことをし過ぎないことです。医師からの指示や、複雑で家族ができないような処置をしているときは医療の処置であり、看護ではありません。家族が「私にもできそうだな」と思える様なケアができたとき、それが私たちの看護の始まりなのです。痰がうまく出せない患者さんには横向きになってもらい背中を擦る。呼吸が楽になるようにストレッチをして体の緊張ほぐす。この時はゆっくりと丁寧な所作で行い、何をしていたか分からないような複雑な動きはしない。ケアを見ていた家族が「あれをしたら気持ちよさそうだな、楽になりそうだな」等と思ってもらえたらケアは成功です。ケアをやってみようと思ってくれる家族が増えるから。私たちがいない時間でも私たちの看護が生き続けるから。そんなやさしい手が増えるようにと願いながら、私たちは日々訪問しています。



移動手段の要は自転車です。4キロ四方の市内を縦横無
尽に交通ルールを遵守して飛び回っています。時には公園で自転車
を止めてほっと一息ついたりもします。

浦安市基幹相談支援センター

浦安市基幹相談支援センターは、浦安市からの委託を受け、市の中核的な相談支援事業所として、障がい種別や年齢、手帳の有無を問わない個別の相談対応や、相談支援事業者に対する人材育成やネットワークづくり等の地域づくりを行っています。私たちは、障がいがあっても、自分らしく地域で暮らしていきたいという方のニーズを実現していくために、何ができるか、どうすれば実現できるかということを利用者さんやご家族等と一緒に考えて、実現していくことを大切に相談支援を行っています。そのために、地域の相談支援専門員1人ひとりの支援スキルを向上していくこと、よりよい地域づくりのために地域の課題を一つひとつ解決していくことに今年度も取り組んでいます。



基幹相談では、毎朝、温かいお湯を沸かす
ことがルーティンです。温かい飲み物を飲んで、
心も身体も温めて1日をスタートしています。

浦安市障がい者等一時ケアセンター

地域で暮らしていく中では、緊急を要する事態にみまわれることもあります。日ごろ介護しているお母さんが病気になるってしまったり、親族に不幸があったりしてすぐに駆け付けなくてはならないことも。その緊急事態にも対応ができるように、浦安市の指定管理者として20年以上、日中一時支援、短期入所、緊急一時支援を実施しています。まさに24時間365日宿泊を伴うサービスであり、障がいのある方達が地域のセーフティーネットとして利用いただける社会資源です。多種多様な障がいをお持ちの方や疾病をお持ちの方が利用しますので、まさに多様性の垣根のような一時ケアセンターで、私たち支援員は、利用者さんの出来ないことや弱みに着目するのではなく、出来る事や個々の強みに焦点を当て、その利用者さんがどうしたら出来るか、伝わるかなどを考えながら、利用者さんごとにオーダーメイドの支援を、利用者さんのペースに合わせ提供させていただけるようなセンターでありたいと、常に心がけて支援させていただいています。

利用者さんの支援に入る前に行っていることは、ストレッチをして体を起こすこと。小さいお子さんと体を使ってめいっばい遊んだり、身体介護がある利用者さんの対応をしたり様々な支援に対応できるように「これから支援に入るよ」と体に信号を送ることから始まります。



法人内での1日は、朝の掃除で始まります。休憩のランチは手作り弁当派が多いです。私も弁当派ですが、たまにリフレッシュで外食もします。退社する時間はそれぞれですが、それまでそれぞれの業務に集中しています。

法人本部

私たち法人本部は、法人全体を支える後方支援の役割を担い、それぞれの担当分野で力を合わせながら法人の発展に尽力しています。利用者の皆さんと直接接する機会は少ないものの、現場の職員が支援に集中できるよう、業務の効率化や環境整備において創意工夫を重ねています。「誰もが心豊かに、安心して、その人らしく共に暮らせる地域社会の実現」という理念の実現に向け、私たちもその一翼を担いたいという想いで、少人数ながらも協力し、陰ながら支援の質の向上に努めています。スタッフ全員が共通の目標に向かい、法人内外へ信頼と価値を届けることを目指して活動しています。

お花見報告

春の訪れとともに、「とも」の恒例行事「お花見」が4月5日に開催されました。皆の願いが叶い、当日は連日の雨が嘘のように晴れ渡り、満開の桜が参加者を迎えました。利用者の方々とご家族、地域関係者、ボランティアの皆様、そして職員が集まり、軽食と飲み物を手に、ゲームや和やかに談笑するひとときを楽しみました。子どもたちもジュースで乾杯し、笑い声が響き渡る中で、春を満喫しました。利用者さんからは「とものお花見だから安心して、参加して楽しめる」という声も聞かれ、「誰もが心豊かに、安心して、その人らしく共に暮らせる地域社会の実現」という理念のもと、地域の人々との絆を深める場としてこれからも続けていきたいと思っています。また、ご協力をいただいたボランティアの皆様に深く感謝申し上げます。今年度も、皆様とともに素晴らしい時間を共有できることを楽しみにしています。





「とも」を支えてくださる方々

ご協力いただいたボランティアの皆様、物品寄付、
寄付金をしていただいた皆様、いつもともを支え
ていただき、ありがとうございます



ご利用案内

【個別のケアサービス】

- パーソナルケアセンター
 - ・障害福祉サービス（居宅介護・重度訪問介護・行動援護）
 - ・介護保険サービス（訪問介護・介護予防訪問介護）
 - ・移動支援事業・浦安市通院ヘルプサービス事業
 - ・パーソナルケアサービス（制度外の支援）
 - ・介護保険外生活支援サービス
- パーソナル・アシスタンスとも居宅介護支援事業所【休止中】



【緊急時の宿泊も可能な支援】

- 浦安市障がい者等一時ケアセンター事業（指定管理者）



【子どもの発達支援】

- 障害児通所支援事業所 マリーナ
（児童発達支援／放課後等デイサービス）



【日中一時支援事業】

- 日中一時支援事業所 マリーナテラス



社会福祉法人パーソナル・アシスタンスともご寄付のお願い

社会福祉法人となっても、その財源は今までと何も変わらない現実です。
皆様からの寄付は現在行っている社会福祉事業に役立たせていただきます。
皆様のご協力をお願いいたします。なお、「とも」への寄付は、以下の
税制上の優遇措置があります。

- ◆ 個人の方は、所得税に係る「寄付金控除の対象」になっています。
- ◆ 法人の場合は、一般の寄付金とは別枠で損金の額に算入することができます。
- ◆ 相続や遺贈によって受けた財産を寄付した場合は、その分は相続税の
対象外となります。

寄付金
振込先

銀行名：京葉銀行 新浦安支店 口座番号：普通 5429331
口座名義：社会福祉法人パーソナル・アシスタンスとも
理事長 西田良枝

【様々な療育事業】

- イルカスイミングクラブ ● 音楽療法 ● ムーブメント療育
- 卓球教室 ● 造形教室 ● ダンスクラブ ● 体操



【日中活動・就労・機能訓練・余暇等の支援】

- 就労継続支援 B 型事業所とも
- ・キッチンカフェほっぷ運営
- ・カフェテラスゆう（浦安市老人福祉センター内カフェ）運営
- ハレレア 共同生活援助（グループホーム）



【訪問看護事業】

- 訪問看護ステーションとも



【生活支援のための相談】

- 相談支援事業所きかん
- ・指定一般相談支援事業（千葉県指定）・指定特定相談支援事業（浦安市指定）
- ・指定障害児相談支援事業（浦安市指定）
- 「相談支援事業所ふあり」指定特定相談支援事業（浦安市指定）
- ・指定障害児相談支援事業（浦安市指定）



【福祉機器等の貸与・販売】

- 福祉用具のレンタルや販売、日生具、補装具など【休止中】

連絡先のご案内

事業名	電話番号	メールアドレス
● パーソナル・アシスタンス とも	047-304-8808 tomo@patomo.jp
● パーソナル・アシスタンス とも（予約専門）	047-304-8811	
● 障害児通所支援事業所 マリーナ	047-304-8815	
● 相談支援事業所 ふあり	047-304-8860 tomo-huali2@patomo.jp
● 日中一時支援事業所 マリーナテラス	047-304-8815	
● キッチンカフェほっぷ	047-304-8820	
● ハレレア 共同生活援助（グループホーム）	047-304-8808	
● 浦安市基幹相談支援センター（相談窓口）	047-304-8822 tomo-soudan3@patomo.jp
● 相談支援事業所きかん	070-5588-8822	
● 浦安市障がい者等一時ケアセンター	047-350-8771	
● 訪問看護ステーションとも	047-304-8808	
● パーソナル・アシスタンスとも 福祉用具貸与販売事業所	070-5561-8808	

ボランティア随時募集

◆ 療育に関わるボランティア

イルカスイミングクラブ、生活塾、造形教室、体操教室、音楽療法、ムーブメント療育、ダンス教室
卓球教室のサポート

◆ フリマ・イベントでのお手伝い、 ケアルームのおもちゃ消毒など

編集人：社会福祉法人 パーソナル・アシスタンスとも
〒279-0022 千葉県浦安市今川 1-14-52

編集後記 2024年度事業報告会、2025年度入職式、恒例のお花見を皮きりともの新年度が始まりました。今年度もよろしくお願いいたします。

FAX 番号 047-304-8821

ホームページ www.patomo.jp

